

2023年1月 外来型CC 指導体制医師評価表 集計結果

I. 配属先の臨床クラークシップについて意見を聞かせてください。【回答者数:101名】

診療科	良かった点	改善すべき点	カリキュラムへの提言
総合診療科	最も良かった点として、近い将来、医療者として生きていく心構えを知れた点です。積極的に問診や診察の機会も与えてくれました。ありがとうございます。	特にありません。	特にありません。
	総合診療科ということもあり、問診の取り方の重要性を学んだ。ポリクリに活かすべきことを首藤先生をはじめとする多くの先生からたくさん学べたこと。	特にありません。	特にありません。
	診療科ならではのことはもちろん様々ところで生かせるようなことが学べたこと	1日目は先生間で実習についての情報が伝わっていないのかもしれないと思うことがあった	日程や時間などを早めに伝えていただけるとありがたかったです
	先生がしっかりと指導して下さったため、患者さんとの基本的な接し方が身についた点	先生の診療の時間があまり共有されておらず、朝の待ち時間が発生した点	実習は面白かった。ユニット型CCへの導入として適切だと思う。
	担当の先生が熱心に指導して下さるところ。その日のCCが終わったあとでも、その後の患者の動向を教えにきて下さったり、症例発表のことも考慮して指導して下さったりと、お忙しい中、我々学生にとっても有意義な時間を提供して下さりました。	問診を学生だけで取っていたので、問診の仕方に対するフィードバックがなかったところ	ないです。
膠原病・リウマチ内科、感染症内科	「やってみせ、言って聞かせて、させてみせ」を体現した実習だったと思う。自分たちが問診している時に、同じ空間に上級医の先生がおられなかったのが萎縮せずにできて良かったと思う。	上級医の先生と学生の上に研修医の先生がおられる日とそうでない日があった。おられた方が気軽に質問や相談ができ、良かった。常におられた方が良かったと思う。	実習が始まってすぐの頃は、学生が予診を取ってカルテ記載をし、主治医の先生がそれを基に問診を行う、という流れを先生が認識されていなかったようで(時間がなかっただけかも知れないが)、連携が上手くいかなかった。事前に先生に連絡をいただけたらと思う。
	問診の取り方や、症例報告について、適切なアドバイスを頂けながら学ぶことができた。現場での診断に、必要な情報も多数学べた。	症例検討会で、ほんの一部の先生から少し的外れな発言があったこと。(アセスメントで鑑別診断について詳しく書いているのに、もっと視野を広く持ちましょう、など)	外来の先生方の教え方に個人差がかなりあり、外来方CCのカリキュラムについてもう少し周知されたいと思います。
	一つの疾患にゆっくり向き合えた点 感染症と膠原病と様々な病気を見ることができた点 典型的なものというよりも自分で推測して疾患を探すことが多かったのととても勉強になった	病院に行った際、先生たちが実習について何も知らなかった点	なし
	問診をさせてもらえたこと。 指導して下さった先生方がとても親切でした。	特になし。 集合時間が少し早めだった。その場での待ち時間が発生していた。	特になし。 特になし。
耳鼻いんこう科	十分な医療面接の機会があり、たくさんのお患者さんを見ることができた。	もう少し症例提示の機会があると良いと思う。	外来型CCを通して医療面接やプレゼンに関してたくさんのお話を学ぶことができた。できることなら複数の科を回れるとより良いと思った。
	とても優しく丁寧に解説していただきました。はじめてのccで緊張していたところを優しく声掛けしていただき、ありがたかったです。	ありません。	外来看護師さんに評価をお願いする点が余り目的が分からないと言われました。
	先生、看護師の方含めて医療スタッフの方がみなさんとても優しく、質問にもしっかり答えていただけてとても勉強になりました。	部屋が狭かったこと。	症例発表会が、勉強にはなりましたが、長すぎるため発表回数を減らすなど少し工夫して頂きたかったです。
治療射線科	優しく解説してくれた。	特になし	特になし
	実臨床の雰囲気を学べた	なし	なし

診療科	良かった点	改善すべき点	カリキュラムへの提言
脳神経外科	全ての日で、担当していただいた先生方に優しく教えていただいたので良かったです。	外来型ccがあるということを知らなかった先生や、他の診療科をまわった人と比較して、フィードバックを受けるタイミングがなかったため、各診療科で大きく差があるのは改善すべきだと思う。	とくにないです。
	一人一人の先生が学生の好奇心を掻き立てるように説明してくれる	なし	なし
	先生方が各症例に対して、説明をしてくださったこと。	特になし。	特になし。
	とても分かりやすい説明をしてくれた	患者に対して目を合わせていない先生がいたので、向き合って話すべきだと感じた	特になし
	大人数の前で症例発表ができていい経験になった。	先生に症例を上手く簡潔に伝えられるようになりたい	特になし
眼科	糖尿網膜症や加齢黄斑変性や緑内障など、似ている症例が多く、理解が深まりました。また、細隙灯顕微鏡検査の見方を現場で教えていただいて勉強になりました。	特にありません。	特にありません。
	医師、看護師など全員が親身に教えてくださり本当に良かったです。	特にありません。	ありません。
	雰囲気優しい。	特になし。	特になし。
	問診の取り方について詳しく教えてくださいました。また、眼科の疾患について丁寧に解説してくださり、大変勉強になりました。ありがとうございました。	特にありません。大変勉強になりました。	特にありません。有意義な実習でした。
	積極的に予診をとらせてくれた	特になし	配属先各科に対し事前の詳細な説明を提言します
整形外科	問診をたくさんとらせてもらえたこと	実習先の先生が外来型ccのことを把握しておられなかったため、周知していただきかったです	ありません。
	1日に一つずつ症例を担当させて頂いた。先生が症例について丁寧に説明してくれた。	特になし。	いきなり患者さんに問診を取ることがとても不安だったが、やってみるとやりがいを感じました。
	質問をたくさんさせてもらえた点	先生が実習内容を知らない場合があった点	楽しかったです。
	一人一人の先生が基本的な事項から、症例の解説をしてくださったので知識的な側面をしっかり理解することができました。また、診療の工夫や聞き方の面も指導していただきました。お忙しい中で、質問にも熱心に答えていただき、大変勉強になりました。	あまり実習をどう進めればいいのか(そもそもどれくらい裁量があるのか)をあまり知らないように思えました。どういう動線で先生方に連絡が行っているのかわからないですが、やり方の面はすり合わせが必要だと感じました。	診療科によるのかもしれませんが、整形の場合は毎日違う先生に指導していただきました。色々な視点が学べてよかった一方で、この症例のこれってどういうことだったんだろう、ということ診察を担当した先生とは別の先生に聞かないといけなくなるので、何回かは同じ先生に見ていただけるといいかもしれません。
	親身になって問診のコツやカルテの書き方を教えてくれたこと。	今日どんな先生が担当か事前に分かればありがたいです。	特にありません。
女性診療科	実際の医療現場で使う問診のコツなどを学ぶことができてとても有意義でした。	先生の問診を見る回数、実際問診させていただく回数、ともに少なかったため先生方の問診をもっと多く見たかったです。	とても貴重な機会をいただきありがとうございました。先生方がお忙しい中であまりお話しできなかったのが少し残念です。
	実際の予診を取るところを見れたのが良い経験になったし実践もできたのが良かった	流石に知識が足りなくて何をすればいいのかあたふたしてしまっただ。自分は女性診療科だったので特に勉強出来ていなくて、どんな患者さんが来るのかすらわからなかった	ユニット型ccの後でもいいのではないかと思います
	忙しい中、私たちにも問診させていただく時間をとっていただいたり、合間の時間で疾患について教えていただいたり、優しくご指導いただき大変勉強になりました。	産婦人科は学生NGの患者さんが多い印象を受けました。それは仕方ないですが、問診を見ることもできないと何も勉強にならないので、それについて理解していただける患者さんが少しでも増えればよいと思いました。	先生方が外来型実習で何をやるのかをはじめ全く理解していない様子だったので、先生方にあらかじめ実習内容とその目的を周知しておいていただきたいと思いました。症例検討会があることを知っている先生がほとんどいなかったため、その点も予め伝えていただけたら、スムーズで内容のある実習ができたのではないかと思います。

診療科	良かった点	改善すべき点	カリキュラムへの提言
女性診療科	いきなり一日中実習に出されるのではなく、午前の外来で留めることで気持ちに余裕を持って実習に臨めた。それだけではなく、学友のカルテを見て発表を聞き、FBを受けることは大変参考になった。もちろん、直に患者と触れ合えるということは何よりの学びであった。	実習には大変満足している。改善すべきところも特に思いつかないが、強いてあげるとすればグル学で使用できる端末が限られているため順番の管理などは不満を感じた。また、改善しにくいことがわかっているうえになるが班ごとによって待遇などが大きく違うと感じた。	祝日の関係で実習期間が4日だったのは気になる点ではあった。(他方グループは5日)
	非常に優しくわかりやすく説明してくださり、またフォローもしてくださって非常にありがたく不安なく実習を終えられました。	特にありません。	非常に良い機会を設けていただきありがとうございます。これからのユニット型も全力で取り組んでまいります。
消化器外科、肝胆膵外科	消化器・肝胆膵外科でした。皆さん熱心に教えてくださりました。化学療法の段階の患者さんが多かったのですが、患者さんとそのご家族に向き合う姿勢・堂々とした姿勢、全てがかっこよかったです。	特にありません。	2週間のうち1週間ごとに2つの科を経験する等
	実際の患者の様子をみることができ、先生とどのように会話しているのか、どんな表情なのかしっかり見ることができて、非常に勉強になりました。	問診をできる回数が少なかったのが、残念でした。	特にありません。
	実際の患者さんを問診し、カルテを記入することで、ユニット型CCにおいてカンファレンスなどで役に立った。	問診の回数が少なかった。	特になし。
	実際の臨床の場において、どのような情報を伝えることが必要かわかった。	内科と外科で問診方法が特に異なると思うのでせつかくやるならどっちもみることができた方が良い気がする。1週間で交代とか	症例検討会1日20例は多過ぎると思った。10~15件ぐらいが集中できると思う。
なし	なし	なし	
皮膚科	すごくわかりやすく、詳しく教えていただいた。	特にありません。	色々教えていただいて、ありがとうございました。
	毎日問診する症例を下さり、その方の疾患に対して教科書を用いた解説、問診のポイント説明、問診後のフィードバックまでしてくださったので、有意義な二週間でした。	特に思い当たりません。	このような実際の患者さんに対して問診をおこなう機会が最初の2週間だけでなく定期的にあるととても嬉しいです。
	色々な項目をしっかりと聞くことができるようになった。	まだ個人個人に則した質問が出来ない点	今のままでいいと思います。ただ授業が規定の時間より長引くのはバイトなど色々休めない理由がありますので延長だけはしてほしくない。
	1つの実習日あたり少なくとも1人の初診患者さんを問診させてくださったことが非常に良かったと思います。また学生が問診している中で、上級医の方が背後に立って、聞き取れていない点をサポートして頂けたのも大変助かりました。その上出会った疾患に対して、教科書を使用しながら、病態や治療法を丁寧に説明してくださりました。皮膚科という診療科が一丸となって学生を温かく見守ってくださいました。心から御礼申し上げます。	特にないです。1つ挙げるとしたら、問診しながらカルテの入力を同時併行で行う練習をしたかったです。	ほとんどないです。1つ挙げるとすればスケジュールが少しきつく感じたことです。実習のあとの症例発表会は体力的に耐え切れず、あまり集中して発表を効くことができませんでした。
	問診をしっかりすることができてよかったです。カルテの書き方を教えていただけたり、教科書をお借りすることができて、とても勉強になりました。生検の様子も見学させていただけたのも良かったです。	問診しながらカルテを書く練習もできたら良かったですと思います。	問診の方法や患者さんの数など他の科との違いが多くて、科によってたくさんできたり少なかったりと変わってしまったと思います。

診療科	良かった点	改善すべき点	カリキュラムへの提言
形成外科	非常に親身に教えて頂けて良かったです。形成再建外科の先生方は全員優しく、私の些末な質問にも丁寧に答えてくれました。また、患者との接し方も丁寧に、特に小児への対応は勉強になりました。	特にないです。	特にないです。
	とても優しく指導していただいた。	事前に外来実習があることは外来の先生全員に周知しておくべき。	特になし。
	自分で問診をして、先生にアドバイスをもらうことで改善点や発見ができて次に活かした。	2週間で2つの科ぐらいいは回りたい	2週間で二つの診療科ぐらいいは回りたい
	学生に対して十分な先生方がいらっしゃったので、丁寧に教えていただきながら勉強することができました。また、いずれの先生も非常に優しくかったです。	特にありません。	特にありません。
	たくさんの初診をさせて頂いたこと。また初診以外の外来も一件一件丁寧に説明してくださいました。	ありません。	形成外科の先生方はみんな優しくとても勉強になりました。
心臓血管外科、小児呼吸器外科、小児腺外科	自分の行った問診について、すぐにフィードバックが頂けたので大変勉強になりました。また、診察や他の手技について見学させて頂くことができ、非常に有意義でした。	特にありません。	先生によって実習に対する理解度がまちまちだったので、最低限どんな実習かは知って頂けていると大変有難いです。
	優しい先生が多く、患者さんも協力的でした。パワハラ、アカハラとは無縁の素敵な先生方に御指導頂いて最高の経験になりました。	先生方に実習の連絡がいかず、先生も困惑されています。また学生も1時間何もなしで待たされることもあり。きちんと先生に実習があることを連絡してください。毎年先輩方が同じような内容をアンケートに書いているはずなのに全く変わっていません。	外来実習自体は非常にためになりました。
	外来の患者に話を沢山聞いた	特になし	特になし
	カルテの書き方、問診のポイントなど細かく丁寧に教えてくださったこと。	待ち時間が長い。	複数の診療科を回りたいです。
	様々な種類の患者さんに接することができ、実際の医療の現場をしっかりと実感することができた。問診上の注意する点などもしっかりと学ぶことができた。	自分の班では特に困ったことはなかったですが、班によっては、その診療科の特徴により、なかなか問診をすることができないことが多かったようなので、初診の取りやすい診療科に行く機会を均等に配分するのがよいかと思った。	非常にためになるカリキュラムだったと思います。
循環器内科、呼吸器内科	問診をとるときに、必ず担当の先生がついてくださって取り合えた後にアドバイスをしてくださるのがよかったです。	特にありません。	同級生とお互いの科について話していて気づいたのは、科によって、また担当して下さる先生によって内容の充実度に差があることです。私の行ったところは非常に良くしていただけで幸運でした。
	質問してすると何でも答えてくれる	あまりフィードバックしてくれない場合もあった	特になし
	実際の患者への問診という貴重な機会をいただけて、とても勉強になった。	なし	なし
	わからないことは1から詳しく教えて下さった。	待ち時間が長い	忙しい中お時間をいただけて嬉しかったです
	とてもわかりやすく丁寧に指導していただいたこと。	特にありません。	特にありません。

診療科	良かった点	改善すべき点	カリキュラムへの提言
生活習慣病・骨・糖尿病・内分泌学・内科I、腎臓内科、	ほとんどの先生方がしっかりと熱心に指導してくださったので勉強になりました。また、できるだけ多くの患者さんを診れるように配慮してくださったのも良かったです。	カルテの書き方、見方をもう少し説明して欲しいと思いました。	一日か二日減らしても良いかと思いました。
	先生の指導がとても丁寧で、問診の前に電子カルテを隈なく見て必要な情報を収集し、患者さんに聞くべきことを考えておくことの大切さを学びました。症例発表会では、短文で分かりやすい言葉遣いを心掛けること、現病歴は時系列に沿っていつから出現した症状なのかを説明することを意識しました。発表が上手な人もたくさんいたので、しっかり真似しようと思いました。	初診の患者さんが来ない日もあり、仕方ないことですが少し残念でした。私の行った第二内科はとても丁寧に指導して下さる先生が多く、不満などはありませんでした。	問診の基本や電子カルテの書き方を1から丁寧に教えてもらえる時間で、これからの実習に活かせる貴重な時間でした。
	よくある病気を見れたこと。予診しことの報告に対して、フィードバックをもらえたこと。	とくになし。	カルテ記載と予診したことの報告を5人分行うことは出来なかった。5人以上行うことみたいな説明があったため、今後その条件は変更した方がいいのではないかな、と感じた。
	制度がしっかりと規定してあった点。	科によって、学生を見る余裕もないほど忙しいように見えた。自身の勉強量が足らなかったことが第一だが、もう少し実働の前日などに設備や問診の項目などについての詳しい説明などあれば業務の妨げにもならずもう少し助けにもなる存在になったと思う。	科によって症例発表の難易度の差があると感じた
	比較的バランスよく初診の患者さんを問診することができてよかった。	なし。	なし。
脳神経内科	先生方皆さんが指導熱心でたくさん教えてくださった。	なし	なし
	よく指導してくれた	特になし	特になし
	問診も毎日とらしてくれ、その後先生の間診や診察に立ち会うことでフィードバックをすぐに出来たのがとてもよかった。	問診のみであったので、診察も出来ればと思いました。	特にありません。
	非常に丁寧に教えてくださってありがとうございました。	お忙しいのは承知しておりますが、予診の前にもう少し説明があると嬉しかったです。	特にないです。
実習生に優しく、配慮していただきました。	1日目連携が取れていなかったのか、行っすぐ返されてしまった。	特にありません。	
消化器内科、肝胆膵内科	消化器内科配属でした。1日につき1症例は予診を取ることを経験させていただきました。実際に問診を取るところを見学して、患者さんが分かりやすいように説明するにはどうしたらいいのかや、こんな風な医師になりたいなどが発見できました。消化器内科では肝炎の患者さんが多く、輸血歴、特に違法薬物使用歴を聞かねばならなかったのですが、どう聞けば患者さんが答えやすいかなど考える機会にもなりました。	特にないのですが、初日に学生が来ることなどの先生・看護師さんも分かっていない状態だったので、急遽ご対応いただいで申し訳なかったです...	座学から一転、一番初めの実習で予診を取ったのでかなり緊張しましたが、いつまでも学生気分ではないと気が引き締まりました。外来型実習をすることができて本当にいい経験ができ、良かったです。
	消化器内科2回、肝胆膵内科2回の計4回、4名の先生のお世話になりましたが全員とても丁寧に教えてくださいました。自分が担当したのは初診患者の問診のみでしたが、OSCEで行ったシステマチックな医療面接の復習だけではなく、通院で対処可能な疾患の扱いという観点からも勉強になりました。	正直なところ大きな問題点は無いと感じました。強いて言えば、振り分けられる科によっては初診患者がほとんど来なくて症例発表に困るとの意見を聞きましたが、実際の外来に参加してる以上どうしようもない気もします。	症例検討会を通じて他の科の外来CCのようすが気になりました。特に先生方を症例検討会でよくお見かけしたこともあり、総合診療科の外来はとても面白そうだと思いました。僕と同じように他の科の外来にも興味を持つ学生が多かったので、例えば2週間の外来CCで2つの診療科を1週間ずつ回る、などというのも面白そうかなと思いました。しかしそのうちユニット別で学ぶことになるので、外来診療を行うという本実習の趣旨を考えれば今の1診療科のみ学ぶ制度のままでいいかと思いません。

診療科	良かった点	改善すべき点	カリキュラムへの提言
肝 消 胆 化 腺 器 内 内 科 科	担当の先生が質問に丁寧に答えていただいた。患者に渡す用の資料を見せていただいて勉強になった。	特にありません。	実際に医療面接を経験できるこのカリキュラムは今後も続けた方がいいと思います。
	毎日毎日お世話になる先生が異なり、先生よっての診察の仕方が違うので凄い勉強になりました。	特にありません。	特にありません。
	特になし	特になし	特になし
血 液 内 科	実際の診療で注意すべきことなどについても教えていただけてとてもためになりました。	特になし	症例検討会がとても勉強になり良かった。
	血液疾患の診断の思考過程を学ぶことができた。	特にありません。	特にありません。
	初診をたくさん経験させていただけました。	特にないです。	特にないです。
	問診がわかりやすかったです。	あまり教えてくれませんでした。	なし
実践的などころ	特になし	プレゼンの勉強にもなってとても良かった	
小 児 科 、 新 生 児 科	先生に熱心にご指導頂けて良かったです。例えば、問診をとらせて頂いた患者さんに関してわかりやすいフィードを頂けたり、その患者さんの疾患と似た疾患でとても勉強になる症例についてご解説頂けたりしたところがよかったです。他にも新生児の心音を聴かせて頂けたりもしてとても勉強になりました。	改善すべき点はありません。大変お世話になりありがとうございました。改善すべき点ではありませんが、小児科は初診の患者さんが少なかったり同意が頂けなかったりして他科と比べると問診をとらせて頂ける数が少なかったのが少し心残りでした。	外来ばかりを2週間しっかり見せて頂き、時には問診もとらせて頂いて、とても勉強になる充実した実習となりました。ありがとうございました。
	小児科という広い科だったので、たくさんの症例が観れた。	カルテの書き方。	もっといろんな科をしてみたい
	親身になって教えてくれたこと。また、一緒に症状を考えがえたり、症状の発生を教えてくださいましたところが良かったです。	小児科、新生児科なので、仕方はないですが、もう少し初診の方に問診をとりたいかったです。	特にありません。
	外来の雰囲気や小児科ではどういことをするのかなどがわかってよかった。また、先生によっては色々質問したり教えてくださりとても勉強になった。	特になし。	初診患者の問診を取る課題であるが、そもそも初診患者が来ないこと、また来たとしても同意を得られないためできないことを考慮してほしいです。
	先生方がとても優しく、患者背景や疾患について解説していただきました。また、診察の合間に小児採血の現場なども見せてもらい、大変勉強になりました。	初診がかなり少なく、予診する機会がほとんどなかったので改善して欲しいが、これに関してはどうしようもないと思いました。	特にありません。
泌 尿 器 科	実習に行った日は毎回、問診をとらせていただき、その後先生に解説してもらいとても勉強になりました。	問診するときは学生のみであるため、問診のやり方についてのフィードバックが欲しかったです。	特になし
	疾患について丁寧に教えてくれた。	患者さんがいない場合は非常に暇。	手持無沙汰になった場合の対応策がほしい。
	学生のみで患者さんとお話することができてよかった	特になし	外来型CCのシステムをあまり把握されていない先生が多くて、こちらあまりわかっていない時に少し大変だった。
	問診や診察だけでなく、エコー検査やカテテル検査も見学できた点。	なし	なし
問診を十分に経験できた点。問診、医師へのプレゼンテーションの後、フィードバックをもらえた点。先生の間診も見学できた点。	実習の内容について先生があまり把握していない点。	大学病院への初診外来は少ないので、1人あたり5回経験するのは厳しいと思われる	
神 經 精 神 科	しっかり勉強していった上で気になる点を伺ったらとてもためになる回答をいただけたこと。	精神科ですので仕方ないですが、もう少し予診にかかわれたらうれしかったです。	特にないです。
	他の診療科では、初診の時だけ実習に参加して、再診の見学などは特に無いとお聞きしていたので、精神科では再診の見学ができて、雰囲気がよくわかりました。	できれば問診をとってみたいかなという思いもありますが、ユニット型で問診をとるということで、特に問題なかったです。	勉強になりました！

診療科	良かった点	改善すべき点	カリキュラムへの提言
神経精神科	先生にそれぞれの症例について勉強すべき事など教えていただきました。	特にありません。	特にありません。
	診察前にどういった疾患の患者さんであるかを教えて頂いたところ。	先生方も忙しいとは思いますが外来型CCで何をやるのかを最低限理解しておいて欲しいです。初診患者さんへの予診、診察の見学がメインの実習であるのに先生方が忘れておりそれが出来ない日があった。	特にありません。
	先生方が、診察や合間にいろいろな知識や、診察のポイントを教えてくださいましたので、診察を見るのが興味深くなって良かったです。また、精神科だったので、患者さんの話を上手く誘導してらっしゃる方法などを見ることができました。	精神科ということもあり、問診を一件もすることができなかったことが残念でした。科によっては、沢山問診をする機会がある子もいて、一度もしていない自分と差がついているのではないかと不安になりました。精神科で問診ができないというのは仕方ないので、あらかじめ問診が可能な科にしばって配属していただけたらいいのになと思ってしまいました。	精神科で問診ができないというのは仕方ないと思うので、あらかじめ問診が可能な科にしばって配属していただけたらいいのになと思ってしまいました。
麻酔科、ペインクリニック	実際に患者さんと接して問診を取れた点。	担当される先生だけでなく、外来の看護師さんにも実習の内容を伝達して頂けると、よりスムーズに実習を行えると思います。	内容に関しては不満はありません。
	実際に患者様と接することができて勉強になりました。	特にありません。	個人的には、麻酔科では術前診察という形になり、初診患者というより、手術予定がある患者の診察をすることになるので他の科と比べて特殊なのかなという印象でした。なので、他の科の初診患者を担当してみたいとも思いました。
	私は麻酔科は最も進みたい診療科であったので、とても積極的に学ぶ意欲があるところ、配属先の先生方は大変ご多忙にも拘らず、舟井先生、田中先生をはじめとして、とても熱心にご指導下さった。	3名の小グループの内1名が長期欠席したため、私を含めた残り2名のいずれかが2回発表する必要があったところ、(おそらくは嘘の)用事があると言われて、私が2回連続で発表することになった。問診を取って翌日に発表するというローテーションを2回連続で行うのは、体力のない私にとっては少しばかり辛かった。ただ、希望の診療科で、私だけ2回症例を経験出来たのは、大変貴重な体験でもあり、非常に良かったと思っている。	外来型CCは日程が過密である都合上、学舎6階のグループ学習室がずっと混雑していて、かつ、カルテ閲覧用PCが空いていないことも多かった。これは、新5年だけではなく、選択ポリクリを回っている新6年もいたことによる。また、カルテを閲覧せずプレゼン資料を作成するときには、空いている講義室として大講義室を使おうとしたが、施錠されていて使えなかった。よって、要望としては、グループ学習室にあるカルテ閲覧用PCを増やすこと、空き時間に学生が自由に使える空間を担保してほしい(図書館まで行くのは時間がかかる)ことである。
	お忙しい中、麻酔科の重要なポイントを丁寧に解説してくださるだけでなく、症例発表の準備にも手厚くサポートして頂いた点です。	特にありません。	外来型CCの教育の一環として、カルテ記載があります。SOAPを理解して適切な記載をすることを学びたかったのですが、すでに診断のついた患者のくる麻酔科外来は少し特殊でした。問診のテクニックや患者への寄り添いは共通しますが、カルテ記載のSOAPの基礎を学ぶために少なくとも2つ以上の診療科に外来実習に行くカリキュラムであればもっと勉強になったと思います。
	実際の先生が行う問診と自分が行った問診を比較して、上手く問診を進めていく話し方のコツを自ら考えることができた点。カルテ記載において、押さえておくべきポイントを問診した先生自身が解説してくれた点。	特になし。	特にありません。
実際の患者さん相手に問診を取ることができ、医療チームの一人としての自覚が芽生えました。	医局と外来の間で連絡があまり取れていないようで、実習があるかないかが食い違っていたことがあります。忙しい中受け入れていただけていますが、もう少し受け入れ体制をきちんとしていただきたいと思います。	麻酔科のため、他の外来でするような初診で行う問診をすることができなかったことが残念でした。	

2. 次の質問の答えに該当する項目を選んでください。

- ① 修得すべき項目が説明されたか？
- ② 患者数や疾患の種類は適切であったか？
- ③ 病歴聴取の機会が十分に与えられたか？
- ④ 身体診察の機会が十分に与えられたか？
- ⑤ 症例提示の機会が十分に与えられたか？
- ⑥ カルテを記載する機会が与えられたか？
- ⑦ 医療手技を行う機会が与えられたか？
- ⑧ 診療方針について自分なりに意見を述べる機会が与えられたか？
- ⑨ 医学知識をよく学べるように適切な援助が受けられたか？
- ⑩ 指導した医師のベッドサイドでの患者さんの接し方は模範として適切であったか？

